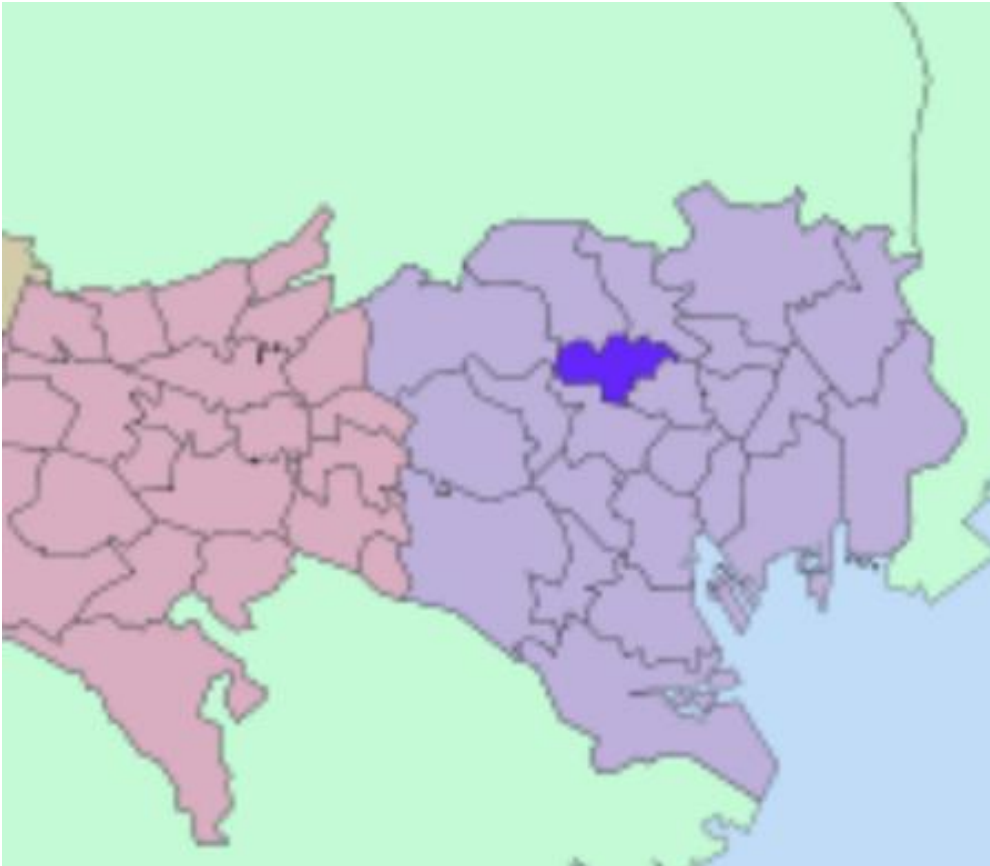


オレンジ(認知症)・
セーフコミュニティをめざして!

～認知症高齢者グループホームの運営から考える～

社会福祉法人 泉湧く家
理事長 宮長 定男
2021.2.7

豊島区(東京副都心のひとつ)中心は池袋駅



↑
東京特別区(23区)の西北部池袋駅が中心
サンシャイン60をはじめ超高層ビルが →

人口約28万5千人、22,660人/km²で人口密度全国一、昼間人口は38万人、山手線の駅5駅、地下鉄路線5本、私鉄2本(西武、東部)

桜「染井吉野」は、染井霊園前の植木職人が交配して作ったとされており発祥の地とされている。



豊島区の高齢者の状態

- ◎ 高齢者人口5万7千人、比率は約20% (2018年)
- ◎ 一人暮らし高齢者(高齢者人口対比) 33.8%
(都24.6%、国17.7%)
- ◎ 夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上) 28.4%

こうした状況から、日本創成会議から「2040年における消滅都市」の指摘がなされた事で注目されました。

最近では、「住んでみたい町」選定で、吉祥寺について2番目のことも・・・

社会福祉法人 泉湧く家
グループホーム 3事業所
小規模多機能 3事業所
居宅介護支援 1事業所
認可保育園 1事業所
等を経営する、職員100名弱
の小さな法人です。

文京区千石のグループホーム



豊島区第1号の認知症カフェを平成25年12月から ～今では区内18カ所に! ところがコロナで……



普段のカフェは地域の方とGH入居者等も



新型コロナで休店! やむなく弁当の配達で

「グループホーム (GH) での暮らし」の
これから、ケアのあり方を考えるときに!

◎GHのあり方に入居者を合わせるケアから、入居者
「一人ひとり価値観」に合わせたGHケアに挑戦する
「GHケア」に！～これが当たり前に追及される。

集団生活の中での「個」を求めて……

◎GHが地域にあるから「地域の一員」から、入居者
「一人ひとりが地域の一員」を追求して、本当の意
味での「地域密着型事業」に！

「その人らしさ」を深めるアセスメントと ケアプラン！そして実践。

介護保険制度20年を経て、全国13,618事業所 入居者約19万人
(平成30年10月現在)となったGH。

しかも、介護職員の深刻な不足という状況の中で、GHケアの質
があらためて問い直されているとの認識に立つことが必要！

そして

◎マンネリを排して、正確なアセスメントと分析的な介護計画をつくる。

◎その上で、「PDCA」サイクルを大切にした実践を。

◎地域との多様な結びつきを模索し、大胆に実践してみることに。

真に地域に開かれたGHになる課題

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて

「特に認知症グループホーム(認知症対応型共同生活介護)については、認知症の人のみを対象としたサービスであり、地域における認知症ケアの拠点として、その機能を地域に展開し、共用型認知症対応型通所介護や認知症カフェ等の事業を積極的に行っていくことが期待されている。また、地域に開かれた事業運営が行われないと、そのサービス形態から外部の目が届きにくくなるとの指摘もあることから、介護サービスの質の評価や利用者の安全確保を強化する取組みを進める」

～平成27年1月27日 平成29年7月5日 改訂

例えば

◎GH運営推進会議へのサポーターの参加

認知症サポーターは、令和2年12月31日時点で、13,017,997人に

◎カフェはもとより相談会や日常の相談窓口の開設等

認知症カフェの開催、相談会や日常の相談窓口の開設等、GHの地域社会での役割を一層役割を高めて

◎「認知症・介護なんでも相談所」の役割を地域に

すべての事業所に掲示し、ご相談に応じる事。地域の介護・医療の連携に積極的に取り組む

認知症GHが、地域に頼られ、認知症のことならいつでも相談できる存在になるためにも

提案

相談所などの活動を積極的に行うGHに**介護報酬の加算を!**

医療、福祉に働く専門職の実習に、GHを入れて下さい!

安心して認知症になれる町！
認知症になっても暮らし続けられる町！

その様な町をつくる市民運動を、全国津々浦々に
広げ、「認知症セーフコミュニティ条例」の制定と実
効ある市民レベルの活動をつくる事を提案します。

東京都世田谷区は、「認知症とともに生きる希望条
例」を、令和2年10月1日に施行しました。

世田谷区
認知症とともに生きる
希望条例

令和2年
10月1日施行

1

誰もが無関係
ひりひとり
区民みんなが
谷区はこの条例をつ

で
いのが、認知症で
希望を持って自分ら
認

この条例では4つの視点を
大切にしています

- 1 いままての認知症の考え方を考える
- 2 みんなかこの先の そなえ をする
- 3 ひとりひとりが希望を大場にしい、
ともに暮らすパートナーとして支えあう
- 4 認知症とともに今を生きる本人の希望と
あたりまえに暮らせること 権利・人権 を
いちばん大切に

東日本で初と言われる 認知
症条例が、昨年一〇月に施
行されました。

市民運動を横に繋げる活動の試み 「オレンジ(認知症)セーフコミュニティ豊島を作る会」 ～私達の試み!

昨年2020年2月、区の呼びかけに応じて「認知症オール豊島」で認知症映画会を開催。「ぼけますから、よろしくお願いします」(信友直子監督)を上映し、300名を超える参加で大成功!

認知症に関わる団体を横につなぐ「市民運動」を作ろうと、昨年8月「オレンジ(認知症)セーフコミュニティ豊島を作る会」を結成。

(キャラバンメイトの会、介護者の会、豊島区高齢者クラブ連合会、認知症カフェ連絡会の代表などが参加)

市民が提起して「認知症の区条例」 の制定を目指して!

大都市東京、ターミナル駅のある豊島区で実効ある「条例」の制定と「認知症安全・安心のまちづくり」をどう進めるか？

創造的で、「まちづくり」に結び付いた区民あがての運動をどう作るか！

全国の皆さん、ぜひお知恵をお貸してください！